

# 総括

## ■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

## ■ 認定の種別

書面審査および6月20日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

## ■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」  
該当する項目はありません。

### 1. 病院の特色

貴院は、グループ病院内で初めて、いち早くリハビリテーション病棟を立ち上げられ、その後、回復期リハビリテーション病棟を開設された。救急医療、がん医療・緩和ケア、回復期リハビリテーションの3つを診療の柱に掲げ、歩行訓練用庭園を備えたリハビリテーション病棟を開設している。以降も、施設基準の変更や増床を行い、現在の回復期リハビリテーション病棟の運営を継続している。伝統のあるリハビリテーション病棟であり、患者会の支援も行っている。

今回、日本医療機能評価機構の病院機能評価の本審査に引き続き、初めての高度・専門機能リハビリテーション（回復期）の受審となった。今回の訪問調査において、貴院が地域の中核的な役割を担い、今後は回復期リハビリテーションだけでなく、高度急性期や慢性期医療の機能を兼ね備えたケアミックスの病院運営を目指していることが確認できた。今後も取り組みを継続され、医療の質向上に努められることを期待したい。

### 2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

法人グループの理念に基づき、「安心・安全な医療」、「自立支援強化」、「きれめのない地域連携」という回復期リハビリテーション病棟の基本方針が設定されている。病棟は回復期リハビリテーション病棟入院料1で運営され、専門医や認定看護師、介護福祉士など基準を満たす人員が配置されている。毎月、多職種が参加する代表者会議が開催され、重症率や実績指数などのデータが確認されている。医療安全管理者は看護師が担い、MRM委員会が対策の検証や勉強会を行っている。転倒・転落や窒息事故の軽減に向けたワーキンググループが活動し、成果を上げてい

る。インシデントカンファレンスを毎月開催し、インシデントや有害事象の共有、対策の検証を行っている。患者のADLやリスク管理はカード化され、ベッドサイドに掲示されている。患者の急変時に対応できる仕組みや安全な療養環境の整備も適切である。

回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用しているが、退院時サマリーの作成率の向上を期待したい。代表者会議において、毎月の回復期リハビリテーション病棟の運営に関わるデータの確認が行われているが、臨床指標のさらなる収集・検討を期待したい。職種、キャリアに応じた研修が作成され計画的に教育が行われており、学会発表や認定資格取得に対する費用バックアップも整っている。入院患者は半数が院内、半数が外部医療機関からの紹介で、入院判定会議を行い地域連携パス症例も運用されている。訪問リハビリテーションや外来リハビリテーション、訪問診療、訪問看護、居宅介護支援事業所等を備え、退院後の継続支援体制が整っている。地域医療連携室には経験豊富な社会福祉士と退院支援看護師が配置され、地域との円滑な連携が図られている。

### 3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

医師は診療情報提供書や入院時のスクリーニング検査にて、主疾患と合併症の評価を行っている。総合病院の特性を活かし、迅速に他科へコンサルトできる体制が整っている。装具作製に関与しているが、主治医として主導的な立場での指導を期待したい。医師は週2回の回診やカンファレンスを通じて生活状況を把握し、多職種と情報交換を行い、リハビリテーション計画の作成に関与し、ICFに基づく診察・評価を行い、チームの目標設定に関与している。看護師や退院支援看護師は入院前から患者・家族と関わり、情報を多職種で共有している。看護師は基礎疾患を把握し、定期的な看護計画の修正を行い、多職種と情報共有している。

療法士は専門的な評価を基に、個別の療法の計画立案・実践・修正を行っている。実生活の評価・介入に対する積極的な取り組みについて検討を期待したい。社会福祉士は退院支援看護師と連携しながら生活状況の把握を行い、入院前から退院調整まで一貫して関わっている。管理栄養士は入院時の栄養スクリーニングを行い、毎月再スクリーニングを実施している。栄養状態は週1回以上モニタリングされ、看護師と連携して栄養管理計画を見直している。退院時の栄養指導も行われている。

### 4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

各職種がテンプレートを用いて専門的な評価を行い、入棟時や初回カンファレンスで情報が共有され、チームの目標が協議されている。他院からの入院患者については、事前に面談し、入院当日から速やかに介入できる体制が整備されている。初回カンファレンスまでに各職種が行った評価を基に総合実施計画書が作成され、患者・家族へ説明して同意を得ている。入院当日に医師が疾患や合併症の状況を精査し、リハビリテーションの処方を作成されている。リハビリテーションは入院当日から毎日実施され、訓練時間や入浴、検査などのスケジュールは掲示されている。

公認心理師が週 1 回勤務し、心理的支援を行い、口腔ケアラウンドも適切に提供されている。

初回カンファレンスの開催後、毎月リハビリケースカンファレンスが行われており、内容は電子カルテに記録してスタッフに共有されている。定期カンファレンス以外に、プライマリーカンファレンスやインシデントカンファレンス、朝・夕のミニカンファレンスなどで患者の状況が共有されている。自宅復帰に向けた課題は入院時から多職種で話し合わせ、介護者の介護能力や住宅環境の情報収集が行われている。入院時から地域生活の再開に向け、服薬指導、食事指導、介助指導が適切に行われており、自宅復帰に向けたカンファレンスも実施されている。

# 1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

## 評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	Ⅱ
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	Ⅱ
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	Ⅱ
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	Ⅱ
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	Ⅱ
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	Ⅱ
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	Ⅲ
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	Ⅲ
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	Ⅲ
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	Ⅱ
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	Ⅱ

## 2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

### 評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	Ⅲ
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅲ
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅲ
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	Ⅲ
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅲ
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅲ
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

### 3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

## 評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	Ⅱ
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	Ⅲ
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅲ
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	Ⅱ
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	Ⅲ
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	Ⅲ
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	Ⅱ